

観光振興対策特別委員会記録

開催日時 平成25年9月11日(水) 10:03~11:22

開催場所 第1委員会室

出席委員 8名

梶川 虔二 委員長

畠 真夕美 副委員長

小林 照代 委員

大坪 宏通 委員

岩田 国夫 委員

森川 喜之 委員

辻本 黎士 委員

粒谷 友示 委員

欠席委員 なし

出席理事者 久保田 観光局長

林 まちづくり推進局長 ほか、関係職員

傍聴者 1名

議 事

(1) 9月定例県議会提出予定議案について

(2) その他

<質疑応答>

○梶川委員長 それでは、ただいまの説明、報告、またその他の件も含めて質疑があればご発言をお願いします。

○小林委員 2点お尋ねしたいと思います。

1つは、今ご説明がありました奈良公園観光地域活性化基金の創設についてで、改めて基金をつくる目的及び必要性、その背景になるもの、それから、少し触れられましたけれど、対象事業をもう少し詳細に、それから、改めて財源について、お尋ねしたいと思います。

2つ目の問題は、先日、委員会の県内調査で葛城市相撲館はや座と、安堵町では飽波神社、広島大仏があります極楽寺と古文書があります歴史民俗資料館、富本憲吉記念館が閉鎖されていて寂しい思いがしたのですけれども、この調査をさせていただいて改めてど

この町にも村にも歴史や伝統や文化があって、それを引き継ぎながら現代に生かしていくことに努力をされているなど感じました。安堵町では観光ボランティアの皆さんに丁寧に案内をしていただきました。奈良県下のどの町にも村にも多くの観光客の方にもっと来ていただけたらなど感じてきました。

ちょうどこれは西和地域に入りますが、私の感覚かもしれませんが、ちょうど奈良市と南和地域とに挟まれて、観光ということでは谷間になっているのかと思っております。今力を入れていただいていると思うのですけれども、橿原市にできました、JAならけんのまほろばキッチン内の観光案内所の今の状況、利用されている方々の状況についてまずお尋ねしたいのと、それから、この中和地域とか西和地域を中心としてこの地域の観光にこれからどのように力を入れ、進めていこうとされているのか、今取り組みもされているとは思うのですけれども、そのことをお尋ねしたいと思います。

○中西奈良公園室長 今回新たに出させていただきました奈良公園観光地域活性化基金についてのご質問であったと思います。まずこの基金の目的でございますが、現在奈良公園を中心としまして多くの伝統行事でございましたり、誘客のための観光行事が民間を主体として行われております。ただ、県なり市なりが補助はしておりますけれども、どの事業におきましても非常に財政的に厳しく、皆さん方の、個人の寄附に頼りながらやらせていただいているのが実情でございます。その民間の皆さんのご苦勞をできるだけ支援をしたいということで、今回の基金をつくらせていただいたのが背景でございます。

これの原資となりますのは、今まで同様、個人もしくは法人の方の寄附金が原資になっており、今県がやっておりますふるさと納税の基金と同様に、一旦県に基金をしていただいて、そしてしかるべき事業に支出をしていくことによって寄附をされた個人の方は税金の免除が受けられますし、法人におきましてはその分が損金算入できるというメリットがあるということで、今まで以上に多くの寄附金が見込めるのではないかと感じております。

それと事業につきましては、燈花会でございましたり、なら瑠璃絵、それから、おん祭をはじめ伝統行事、そして今ちょうど委員会をさせていただいております春日山原始林の保全という大きな目的、大きな誘客につながる事業を中心にやりたいと思っておりますが、審査会をつくらせていただいてきちんと精査した上で支出をしたいと考えております。以上でございます。

○谷垣ならの魅力創造課長 中部、西部地域の観光振興についての取り組みについてご説明をさせていただきます。

県が進めております記紀・万葉プロジェクトにおいては、中部、西部地域にも力点を置きながら取り組みを進めておりますところでございます。具体的には、今年度も昨年度に引き続き下半期の当プロジェクトイベントガイドの発行準備を進めているところでございますが、各地域、市町村等が主体となりました取り組みを紹介しておりますが、全掲載イベントのうち、中部地域のイベントは平成24年度下半期では24件、62%、平成25年度の上、下半期の今つくっている部分でも32件のイベントで、全イベントに占める割合は74%と非常に高い割合になっております。

それ以外にも観光ボランティアガイドの方と協力して実施します記紀・万葉ウォークというイベントにおきましても、県内の15カ所で開催の予定でございますが、そのうち12カ所が中和地域の取り組みとなっております。記紀・万葉の世界は、中和地域で展開されている物語が非常に多うございますので、この取り組みの中でも重点を置きながら進めていきたいと考えております。以上でございます。

○浅田観光振興課長 JAならけんまほろばキッチン内の観光案内所についてお答えさせていただきます。

まほろばキッチンにつきましては、4月14日オープンさせていただきまして、約4カ月半たっております。8月末現在で約2万3,000人の方にお越しいただいております。1日平均で大体約160名という状況でございます。

まほろばキッチン内では観光コンシェルジュを2名置いて案内させていただいておりますが、あわせまして市町村と連携したイベントもさせていただいております。7月27日から28日につきましては、南部地域観光プロモーションで、特産物の販売ですとか、吉野町の紙すき体験、川上村の木工クラフト、また8月25日は中中和観光プロモーションで、葛城市の物産販売、また橿原市、葛城市の観光PR等を現在展開させていただいております。以上でございます。

○小林委員 ご答弁ありがとうございました。奈良公園観光地域活性化基金の対象事業のこともお話いただきましたが、その対象事業をどのように決めていくかですね、もう既に事業としてあります燈花会等の話はあったのですが、新しい事業はどのように決めていくのかお尋ねをしたいと思います。

それから、中和、西和地域などを中心とした奈良県の中部ですけれども、今お聞きしまして、力を入れて取り組んでいただいていることがわかりました。ただ、なかなか観光客に来ていただくという点では、まだまだ北部と統計により比べますと少ないということで、

さらに観光の光を当てていただきたい。それと全ての町村に行って感じたのですけれど、やっぱり歴史と伝統は本当に行ってみますと、よくわかりました。それで奈良県が構成されているわけですから、それぞれの町や村それぞれに光が当たるように、そういうことについてもぜひ留意して進めていただきたいと思います。以上です。

○中西奈良公園室長 奈良公園観光地域活性化基金の、特に対象となる新規事業をどのように定めていくのかでございますが、先ほども言いましたように、一応審査会をつくっていかうと思っております。その審査会の中で第三者の方々に公平な目で審査をしていただくと思うのですが、県としましては活性化と名打っているように、多くの観光客の誘客が見込める事業という形で考えていきたいと思っておりますので、例えば指標として10万人以上の誘客が見込めるとかいう部分をその中に入れていただきたいと思いますと考えております。以上でございます。

○小林委員 対象事業どうするかは、大分大きな問題だと思いますので、ぜひその点もよろしくお願いいたします。

○森川委員 何点か聞きたいことがあるのですけれども、新奈良公園の観光地域活性化基金積立金は、ほかの地域もこの基金を利用することができるのかどうか、これは奈良公園だけの基金の積み立てなのか。もしほかの地域にもこういう基金があるのであれば、教えていただきたいと思います。この基金は、観光開発に一つの投げかけをできるような形とは思っているのですが、できれば教えていただきたいと思います。

それと、この中に外国人の観光客のおもてなし事業としてあるのですが、今現在、奈良駅だけではなく、郡山駅、王寺駅など、各県内の駅に、この辺にこういう見どころがあるという案内板の設置を計画されているのか、今現在どのぐらいの駅に、こういう案内表示、観光地に対するサービスがあるのか。たまに電車で奈良駅へ来たときに、改札口を出たところから外国人の方が右往左往されている姿をたまに見かけます。ということは、駅をおりたときにその案内板がまるっきりないというか、少ない。だから駅の右から出ていいのか、駅の左から出ていいのか、どちらへ行ってバスに乗ったらいいのか、車に乗ったらいいのかということも往々にして見かけます。これは奈良駅だけではなく、王寺駅にしろ、郡山駅にしろ、橿原市内の駅にしろ、外国から来られた方も、また他府県から来られた方にしてもどういった導きの形の観光案内板、観光計画を考えられているのか、その辺もし考えておられることがあれば、まず教えていただきたいと思います。

もう1点、県営プールの跡地活用で、前回の委員会でもこの跡地にNHKを誘致すると

いう協議が始まっているという話は聞きました。これからNHKを誘致した後にホテルの計画は本当にできるかどうか。それともう1点、ホテルが誘致できるように、また観光客を誘致できるようにと考えておられるのであれば、その経路があんまりはっきりしないのです。この間もいろいろ話したときに、近鉄新大宮駅から県営プール跡地に歩いてくるのに、駅の出口が一つしかないのです、それも一番端。このような計画を立てられるときに奈良市役所寄りに駅の出口をつくるとか、駅をもうちょっと手前に考えると、まず駅の利用を考えていかなければならないのではないのかなと思うのですけれども、まだ全体計画として、このような大きな事業を今後されるに当たって、最寄りの駅はどこをメインにするのか、バスをどうするのかという交通計画を立てられると思うのですけれど、交通計画をどのように考えておられるのか。プールのことは2点だけ、今後のホテルの見通しと、ここに通り、観光客が周遊できる交通計画をどのように考えておられるのかをお尋ねをさせていただきたいと思います。

○中西奈良公園室長 奈良公園の基金設立に関しましては、平成24年2月に奈良公園基本戦略をつくらせていただきました。それに基づいて奈良公園をどのように維持保全していき、活用していくのかということ、またあわせて地域活性化総合特区の申請も今しているところでございますが、その延長としてこの基金をつくらせていただいたわけございまして、これだけに関していいますと、エリアは奈良公園基本戦略のエリアになりますので、JR奈良駅から東側ということになります。今後、またほかのエリアについてもこのような基本戦略等、官民連携の形ができていくことが我々も望ましいとは思っておりますが、奈良公園観光地域活性化基金だけに関していいますとそういうことでございます。以上です。

○阪本国際観光課長 外国人の観光客へのおもてなしにつきましては、おもてなしの心を受け入れるということが満足度の向上につながるということで、外国人の方に関しては口コミでの、各国へ帰られてからの誘客とかが大切だと思っております。リピーターの増加のためにはそういうおもてなしがいかに重要であるかが大切かと思っております。これはプロモーション活動と同様に、両輪の活動でやっていかなければならないと考えておるところでございます。

今おっしゃいましたおもてなしにつきまして、駅につきましては、今現在、詳細はございませんが、日本語と英語と、それから、ところによりましては中国語の表記があろうかと思っておりますが、表記についての充実も、今後求められているものと思っております。

個別に、平成23年度には旅館とか交通事業者の方を対象にした研修会も開いたところ
でございますが、今後このおもてなしについては、交通機関のことも含めまして、あと、
外国人観光客が必要となるインフラはどういうものであるのかを研究しながら進めていき
たいと思っております。以上でございます。

○中尾知事公室審議官（県営プール跡地活用プロジェクト担当） 県営プール跡地のご質
問を、2点いただきました。

まず、ホテルでございますけれども、ホテル誘致はこれまでも、それから、これからも
やっていきたいと考えております。このプロジェクトの中で中核的なものだと考えており
ます。今、ホテル誘致をしていく中で、ホテルの部分だけではなくて、全体で3.1ヘク
タールございますから、そのほかの部分も含めてどういったプロジェクトにしていくのか
を、投資家からもホテル以外の部分も考えていったほうがいいのではないだろうかとい
うお話もいろいろいただいております。そういった中で、我々も滞在型観光の拠点をつくっ
ていくということで、宿泊だけではなくて、今回のNHKもありますけれども、イベント
広場的な部分でありますとか、あるいはコンベンションのような機能であるとか、後でも
申し上げますけれども、公共交通の機能であるとか、そういったものを集められないか
という検討もしておるところでございます。

今回、特にNHKはいろいろな奈良に関する映像のコンテンツをお持ちで、我々歴史展
示を平城宮跡、それからプール跡地含め大宮通りプロジェクトの中でやっていこうと考
えている中で、そういう映像を使った展示も重要な中身になるかと思えますし、イベン
トでもいろいろと協力できるのではないかと考えておりますので、そういった中でホテルの部
分も引き続きやってまいりたいと思っております。

それから、交通につきましては、特にご指摘のとおり、駅からは距離が多少ございます。
やはりバスの活用をうまく考えていかないといけないと思っております。今イベント時
であるとか、あるいは休日にはぐるっとバスを走らせておりますけれども、大宮通り、三
条通りを回っております、プール跡地の周辺も回っておりますから、そういったもの
の活用も検討をしていかなければいけないと思っておりますし、あるいは長距離バ
ス、あるいは空港リムジンバスといったものもプール跡地まで引っ張ってこれないか
ということも考えたいと思っておりますので、もちろん鉄道だけではなくて、バスのア
クセスを含めて検討してまいりたいと思っております。以上です。

○森川委員 通告なしで突然質問して、本当にスムーズにお答えしていただいたのですけ

れども、奈良県がやる事業としては、確かに地域だけに突出するのはいいけれども、こういう基金をつくられるときには、特定の場所を選定して、ここだけというような基金は今後考えていくべきではないのかなと思います。今回新しい事業という形で、奈良公園の中だけの基金ですか、平城遷都1,300年祭のときにどういう話を聞いているのかといえ、奈良県には奈良公園や大仏さんだけではなしに、本当にもっと多くの埋もれた文化財、国宝級のものがこんなたくさんあったのだという話を聞いてきました。その中で、県としてそれだけの多くの意見を聞いているのに、なぜもっとほかの地域、全体像を見ていただけないのか。ですので、基金は奈良公園の整備事業の一環としてのものだと聞いているのですけれども、今後は全体の市町村に仮に寺社仏閣のところでも観光に寄与できるような、集客ができるようなところがあれば、もっと相談して、またそこに観光客も来られるような窓口を今後できれば考えていって、奈良県全体、奈良公園から桜井市や大和郡山市などの各地域へ行きやすいような、またそこで観光開発ができるような基金を使える形も、できれば今後拡大していただいて、また協力していただけるような形をできましたらつくっていただきたいと、要望させていただきます。

もう一つは、知らない地域に行ったときに、まず電車からおりて、その駅の改札を出たところから、その地域の場所、どこへ行けるのかを見ると思います。できたら、奈良駅だけではなく、文化財があったり、観光開発ができるようなところがあれば駅に、駅の改札を出たところにも観光の案内看板を全体的に設置していただきたいと思います。これも要望で今後考えていただけたら、知らない方が来られたときに本当に丁寧な、おもてなしのある奈良県だと思っただけだと思います。オリンピックも、7年先に決定しました。7年先ではなしにそれまでに各国から東京都に向けて来られるけれども、東京都に来られたら奈良県にできるだけ来ていただけるように、そういう形も踏まえて整備していただきたいと、要望しておきます。

また、今どれぐらいの地域に観光案内看板の設置がされているのか、駅の数等、わかればまた後で教えていただきたいし、今後頑張っただけだと思います。

プールの跡地ですけれども、跡地利用についてさまざまなご意見を皆お持ちだと思います。法隆寺から来たら、電車で行けば、JR法隆寺からJR奈良駅という形で行きます。ここの施設を使いたい時は、バスか電車か歩いてか。プール跡地の利用計画はやはり交通面から始まると思うのです。どこの地域、どこの駅でどこから来るのか、どこからこの場所に来るのかという交通計画もつくって、それで誘致をしていく。ホテルでもそうだと思

います。本当にホテルの場合は、歩いていけるのか、バスで行けるのかによっては大違い。近鉄新大官駅の西側に仮に駅の出口があれば、電車をとめるところをずらせば、これだけで西側の駅からおりて、歩いても駅から10分もかからないぐらいで行けるだろう。ところが今の東側の出口だけであれば、20分ぐらいかかる。安くついて、一番利用方法のいように、跡地利用について交通面も考えていただいて、ホテルも継続して誘致をされるというのであれば、なおさらそういう形でやってもらいたい。観光としての位置づけで県のこのプロジェクトが進められていることは、観光客、また利用者が利用しやすい形に、取り組むのには駅とかバスとかをここへどうやって持ってくるかの検討も一緒にしないことには、観光としての意味がないという思いがあって、突然でしたけれど質問をさせていただきました。そういう意味で、要望として、今後跡地周辺の交通整備としていろいろご検討していただきたいと思います。質問終わります。

○梶川委員長 今、森川委員が言った、特に奈良公園の基金の問題等、奈良公園にするという合理性、県民合意が得られるような、いろいろな機運をしっかりとつくって、奈良公園だけに限定するか、あるいは場合によったら、ほかでもそれに匹敵するようなイベントをされている場合はそれらも入れるか、よく今の森川委員の意見を聞いてやっていただきたいと思います。

○大坪委員 質問をさせていただきたいと思います。

まず最初に、森川委員からもご質問されました、県営プールの跡地活用プロジェクトですけれども、ホテルが中核的なものであると考えていると今、ご答弁ありました。そしてまた他の方から、ホテル以外のことも考えられるのではないかということで今後検討されていくということですが、2月予算のときに、割と詳しい資料が出ましたけれども、そこへこのNHK奈良放送局の話が出てきたわけなのですが、これは2月のときの考え方と、NHKの話が出てきてからと変わってきているのではないかと感じるのですけれども、これからホテルも含めて、この計画が当初予算に示されたものと全く違うものになってくる可能性があるのか1点お聞かせいただきたいと思います。

○中尾知事公室審議官（県営プール跡地活用プロジェクト担当） 今年度、ご指摘のとおり、予算でもプール跡地のプロジェクトの中身を整理していく、検討していくということで今やっております。予算のときから、大きなコンセプトとしては日帰り観光、奈良県が長年抱える課題からの脱却ということで、そういった宿泊も含めた滞在型の観光拠点をつくっていくことをやっております。

NHKの話は今からまた検討していくことにさせていただきましたけれども、そこは変わっておりません。NHKも、もちろんご自身の放送機能確保ということはあるでしょうけれども、NHKがお持ちになっている映像的なものであるとか、あるいはそのイベント的な能力であるといったものを最大限活用していただきながら、地域の振興といいますか、にぎわいづくりに協力して、コラボレーションしていくような形で進めてまいりたいと思います。そのほかの施設につきましても、例えばイベント広場的なものであるとか、コンベンション機能でありますとか、飲食物販のような機能といったものも宿泊の機能とあわせて今検討しておるところでございます。面積が3ヘクタールほどございますし、NHKは恐らくそのうちの0.4から0.5ヘクタール程度のものだと考えておりますので、まだまだ2.6から2.7ヘクタールぐらい土地がございますので、その中でにぎわいのできるような内容を、ハードだけではなくてソフトも含め検討を今年度してまいりたいと思っております。以上です。

○大坪委員 どうもありがとうございます。NHKの放送局というのはわかるのですが、周りのいろいろな方に聞いていますと、特に奈良市民の方ですけれども、何であそこにホテルなのかと大多数の方からそういう意見が出るわけであります。

そういった中でよく話に出るのが、これはあくまでも意見なのですが、県庁がプール跡地へ行って、市役所と、なおさらそこにNHKの放送局があれば、これはイベント広場の活用にしても、またコンベンション機能にしても、本当にすごくよいものができるのではないかと。また、警察署とプール側はたしかちょっと高かったと思うのですが、かなりの高さまで利用できる地域になります。奈良市で一等地の場所になりますので、この場所をフルに、高度利用できるような形というのがやはり市民、県民の利益にかなって行くのではないかと考えております。そして県庁の場所がもし仮にホテルにでもなれば、世界でも有数のすごいブランド力のあるホテルになるのではないかという話を奈良市のメンバーの方々と話をするときもあります。これはまた、今後も検討される経緯見守っていきながら、いろいろと質問させていただきたいと思っております。よろしくお願いを申し上げます。

次に、先日、総務警察委員会の調査で地元議員として参加をさせていただきました。アジア太平洋観光交流センター、APTEC、そして外国人支援センターに行かせていただいたわけではありますが、お伺いをしたいのですが、APTECについて、これは大阪市から、知事が力を入れてぜひ奈良県にということと呼んでこられたという経緯があります。これに対して運営の補助を出しております。また奈良市でも家賃補助的なものを

出しているということです。もともとJR奈良駅のシルキア奈良は、この町のにぎわいをつくるという意味合いで、当初は1階にも2階にも物販施設等が入っていたのですが、今は1階のみで、2階は病院関係と、APTECとそして外国人支援センターが入っています。運営補助が出ているということです。APTECに関しては、日本に来ていただいた、奈良に来ていただいた事務所がある。それで、今後いろいろと観光統計の関係の会議もしていただけるということですが、県からお金が出ている以上、奈良県へ、せめて関西中心にと、しっかりと引っ張ってきただけの意味のある存在となってもらえるようにしていただきたい。そうでなければ何も奈良県でお金を出してまでやる必要はないと思っております。その辺もしっかりAPTECと話をしていただきたいのですが、聞かせていただきたいのは、外国人支援センターについてですが、この相談窓口について、平成3年から平成23年まではなら・シルクロード博記念国際交流財団、平成24年度が、奈良県中小企業会館2階、そしてことしからシルキア奈良の2階へ移転をしているわけですが、このあたりの経緯についてお聞かせいただけますでしょうか。

○久保田観光局長 外国人支援センターは県内にお住まいの外国人の生活支援等をする施設でございます。平成23年度までなら・シルクロード博記念国際交流財団を持っておりましたので、その間は財団で外国人支援をしておりました。財団は閉じましたので、その機能は県が直営するということで、平成24年度は近鉄奈良駅前の施設にあったのですが、せっかくこのUNWTOという国際機関を誘致するのだったら機能を多面化するために、そこに施設をとということで、今年度4月に移転させていただいて、外国人支援センターの機能を果たすためにいろいろな外国語対応できる方を雇用しておりますので、機能を十分に発揮できればということで、移転したということでございます。以上でございます。

○大坪委員 ありがとうございます。確かに隣にAPTECがあつて、この前見せていただきました交流スペース、とても便利で、また外国人支援センターも大事なものだと思うのですが、ただ、相談件数を見ていると、ことしは、昨年度の同時期と比べて約2倍に増加と書いていて、ここに移ったから効果が出ているというアピールともとれるのですけれども、年度末まで見てみないとわかりませんが、来訪よりも電話のほうが倍とか、3倍という数字が多いのです。中も見せていただきましたし、近くを通ると、たまに二階を通ったりするのでありますが、ほとんど人が来られている様子がない、電話で対応されているのかもしれないけれども。平成24年でいいますと来訪が117件、電話が304件ということで、件数でいったら478件ですから、平均すると1日何件かと

なってくるわけですが、その辺を考えたときに、確かにA P T E Cとの関連性でいいというものもあるのですが、そもそもこの外国人支援センターのあり方自体が、もう少し例えばコンパクトな場所とか、あるところとくっつけて、合理的にしても十分にこれぐらいの数だったらこなせるのではないかと感じるわけです。また一度ご検討いただけたらと思います。これは、平成25年度の結果も見させていただいて、また違う視点からでも質問させていただきたいと思います。

そして最後に、観光のPRの関係でお伺いをしたいのですが、全国には観光大使でありますとか、ふるさと大使という形で設置されているところが結構あります。俗に観光大使と申しますと、著名人の方、芸能人の方でありますとか、学者の方でありますとか、経済界で活躍されているような方、こういった方をその県の観光大使に指名する。またふるさと大使の場合には、その土地の出身者の方で、全国の県人会等で活躍されているとか、また事業をされているといった方がふるさと大使に任命をされていて、活躍をされているのですが、いろいろと本県でも観光のPRを取り組んでいただいておりますけれども、観光大使なりふるさと大使といった形、また人材を活用しての観光アピールについて、今どのように取り組まれているのか、またこれからどうされるのかお伺いをできたらと思います。

○浅田観光振興課長 観光大使、ふるさと大使についてのご質問でございます。

委員お述べのとおり、全国でいろいろな活動をされているということでございます。奈良県の場合、特にそういった方々を任命して活動していただいているということは今現在ございません。奈良県が取り組んでおりますのは、例えばこの間、土、日つきましては、名古屋市の県人会の方々と共同して名古屋市で観光PRさせていただいたりということで、特に著名人ということではなく、その土地に根をおろして活動されている方々と一緒に組ませていただいて観光PRをするといった手法で今現在取り組んでおります。

また、奈良県のマスコットキャラクターのせんとくんは、全国的にも有名でございます。そういったせんとくんなど有効に活用して、観光PR、情報発信に取り組んでいるところが今現在の状況でございます。以上でございます。

○大坪委員 ありがとうございます。例えば、高知県でしたら、映画でも話題になりました「県庁おもてなし課」という映画もありましたけれども、あの映画もいろいろと作品をつくる中で作家の方とか、俳優の方がかかわってきて、いろいろ盛り上がったのですが、そんな方々も観光特使という形になっていただいているようです。そこには著名人

の方だけではなくて、一般の方で郷土を愛する、高知県を愛しているという気持ちで、それぞれの生活をしている地域でしっかりと高知県のPRをされているということをお聞きしました。また徳島県においてもそういった形の、一般の方を対象にした制度があって、名刺を配布されて、その名刺をもらった人が徳島県に行って、指定のその店に行くと少し割引なり、施設の入場料も割引される。またお買い物されたときも割引をされる。こういったこともあるということもお聞きしたことがあります。著名人の方は、いろいろと予算的にもかかるのかもしれませんが、奈良県出身の方であれば、自分らのふるさとやと、奈良が好きやねんということで頼めば結構協力してくださる方はあると思います。また一般の方の、ふるさと大使的なものでも、基本的には名刺を刷る印刷代ぐらいのことです。ただ、何らかの特典をつけようと思うと、制度的なものをつくらないといけないかもしれませんが、ぜひとも今のこの観光PRの形に加えて、人づての口コミの観光PRの方法として、ぜひともこういった制度も考えていただければありがたいと思います。どうかよろしくお願いを申し上げます。以上で質問は終わります。

○粒谷委員 1点だけお伺いしたいと思います。奈良県の観光といいますと、いわゆる寺社仏閣、あるいは奈良公園がメインだと思うのです。その中で、例えば奈良公園の中には、国有地と県有地と市有地、それと個人の土地があろうかと思えます。その中で、例えば個人の土地が、登記法上の問題をクリアして開発なさる。では何でもできるのかという話になると思うのです。その中で、例えば過去に東大寺の西側で尾田組さんお持ちの土地がございました。これを開発されてレストランとかいろいろなものの複合施設をおつくりになりました。最初から違和感があるなという思いがあったのです。このように、公園の中の民有地を例えば開発に出されるときに、県は傍観者的な形になるのか、それとも県が積極的にこの奈良公園の基本的なコンセプトに合うような形での指導をされるのか、そういうお考えがあるのかないかまずお聞かせください。

○中西奈良公園室長 ご質問の部分で、奈良公園というのは、奈良公園基本戦略の広い意味の奈良公園かと思えますが、例えばこの県庁から東向いた奈良公園一帯は開発の規制もかなりかかっておりますし、従来から地元も含めていろいろな形の話し合いをしておりますので、開発等については、我々も同じ土俵で相談したりすることはできるかと思えます。ただ、JR奈良駅のほうまで行きますと、今の段階ではすぐ一緒にお話をするような場所も持ってはおりません。ただ、今特区に絡みまして、地域活性化協議会を立ち上げておりまして、地元の商店街等もその中にメンバーとして入っていただいておりますので、今

後また特区の是非もありますけれども、並行しながらそういう部分にも意見を言えるような形で連携してやっていきたいと考えております。以上です。

○粒谷委員 申し上げたのはJR奈良駅までの広範的なお話ではないのですけれども、いわゆる近鉄奈良駅から若草山の間について、奈良公園という、グリーンの芝生のある周辺から、一つは商業ゾーンという三条通りのゾーンを含めて、要するに奈良へ観光に来られた方にお金を出してもらわないといけないわけです。そうすると、商業ゾーンの整備も必要なのです。今おっしゃったように、そういう大きい開発等は県もかかわっていくというならば、尾田組さんの開発のときはどれぐらいのかかわりがあったのですか。

○中西奈良公園室長 正直言いまして、今のそのレストランができた部分等については、多分奈良市の許認可以外、県として観光サイドではかかわりはしていなかったと思います。

○粒谷委員 となりますと、この奈良公園、JR奈良駅から東側、若草山までのこの間の民有地については、県が例えば大規模開発をされる場合、50坪、100坪はまた別ですが、大きな開発をされるとすれば、県はあまりかかわらない。基本的に奈良公園の一体感としてミスマッチかなと思っても、当然、個人の財産権ですから、県は侵害するようなことはできません。しかしながら、県が思う奈良公園の一体化とすれば、県も積極的に個人の財産権といえどもかかわっていくのが本来あるべき姿かと思うのですけれども、その点についてはどうですか。

○中西奈良公園室長 おっしゃるように、なかなか今までその私有地の部分については、広い意味の奈良公園といいながらも、我々にその許認可権があるわけでもないので、かかわりにくかったのは事実でございますが、先ほども言いましたように、今地域活性化協議会を立ち上げておりまして、その中で100%ではないでしょうけれども、できるだけ奈良公園周辺のあり方を一緒に議論をしていきたいと思っております。ただ、それが規制力があるのかといわれると、あくまでもモラルの問題であったり、今ありますように、どんどんマンションが建っていつていることは、奈良公園の基本戦略の本来の趣旨からいえば違うかなという気もしておりますが、そこはできるだけ打ち合わせをしながら頑張りたいと思っております。以上でございます。

○粒谷委員 正直言って、行政側の立場からいえば、ある意味では個人の財産権を侵害することも大いにあるかもわかりません。しかし、現在それはできないというのは事実なのです。その中で今非常に気になるのが、猿沢荘の横の魚佐旅館の跡地です。この土地について、現在あの跡、まだ決まっていないのかどうか詳しいことはわからないのですけれど

も、奈良県のロケーションの中では最高のロケーションなのです。これを今言いますように、地主の方に県がどこまでプレゼンをなされたのか。いや、もう個人の財産ですから、県はそう深く入れないのか、それとも県としてはこういうご提案をさせていただきたいというようなプレゼンまで入ったのかどうかはどうなのですか。

○中西奈良公園室長 今おっしゃっているのは猿沢池の魚佐旅館跡地かと思いますが、これにつきましては、周辺が猿沢池及び奈良公園という部分、それから、旅館跡地へのアクセスは、奈良公園の道路が主を占めておりますので、今現在も土地の所有者とどういう方向でいかれるのかについては、非常に深くかかわりを持ち、県としてもいろいろな紹介等もさせていただきながら進めております。ただ、あくまで個人のことでありますので、今の段階でまだ決定には至ってないと聞いております。

○粒谷委員 というのは、今度猿沢荘も閉館になるということですね。そうすると、ある意味では奈良市の公園の一体化の中では非常にいいロケーションであり、いい商業集積ゾーンになると思うのです。一つは、個人の考えとすれば、跡地を例えばホテルもいいでしょうけれども、いわゆる消費をしていただけるような商業集積ゾーンの核となれば、三条通りを含めた商店街の活性化にもなってくると思うのです。そういう意味では、個人の財産といえども県としてこういう考え方があるのだと積極的なプレゼンをやっていかなくてはならない。当然コストの問題もあろうかと思いますが。

きのう、たまたま知事の観光の講演会がございました。知事が伊勢市のおかげ横丁の話しをしておられましたけれど、これも消費の仕掛けをしたからこそ初めてあそこに大きな消費が生まれたわけです。今奈良の場合、観光に来られたけれども、消費するところがないのです。食事をするところも非常にまばらであると。そういう意味では一つの商業集積ゾーンのような形で、消費をしていただけるようなロケーションをつくれれば、プール跡地よりも非常にありがたい地形だと思うのです。そういう意味では県も積極的にあの土地の、跡地利用にかかわってご提言されるべきではないのかなと思うのですけれども、最後に、魚佐旅館の跡地を含めた、猿沢荘も含めた形で県はどのようにお考えなのか、お教えください。

○中西奈良公園室長 猿沢荘につきましては、関係部局ともよく相談しながら、どのような利用をしていくべきかどうかを慎重にやっていきたいと思っております。

それから、魚佐旅館の跡地につきましては、おっしゃるように、積極的なプレゼンという部分も含めて、土地の所有者と、今までもさせていただいている部分はあるのですけれど

ども、できる限りそのロケーションを壊さぬよう、そして一帯の、おっしゃる商業集約につながるような開発になるように、できる限り頑張っていきたいと思っております。以上でございます。

○梶川委員長 よろしいですか。ほかにありませんか。

そうしたら、ないようですので、これをもって質疑を終わります。

理事者の方はご退出願います。ご苦労さまでした。委員の方はお残りをお願いしたいと思います。

(理事者退席)

それでは、本日の委員会を受けて委員間討議を行いたいと思います。

まず初めに、8月に行いました県内調査の概要と参考資料を手元に配付をしていただきました。

なお、委員間討議につきましては、当委員会の所管事項であります歴史とにぎわい創出による観光振興に関することについて、今後特に議論を深めるべき課題や論点について行っていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。自由に思うことを言ってもらったらいいと思います。

手元に配付しております参考資料は、記紀・万葉プロジェクトやにぎわい交流の拠点整備の推進に関する県の施策をあらわした資料となっておりますので、参考にさせていただければいいと思います。

それでは、県内調査の概要をごらんいただきます。県内調査を8月20日に実施いたしました。先ほど小林委員のほうからも紹介がありましたが、皆さん参加をしていただきました。

調査事項として、大宮通り、平城京歴史館、葛城市の相撲館、そして安堵町の飽波神社、極楽寺について調査を行いました。

調査の概要としましては、大宮通りでは大宮通りプロジェクトに基づき、近鉄奈良駅行基広場の環境改善のための屋根の設置や大宮通りにおける花と緑の空間づくりが進められています。

平城宮跡では、今年度、朱雀門の南側エリアの歴史公園拠点ゾーン整備計画を、往事の姿を知ること、奈良時代に感じる空間づくりなど、コンセプトを策定し、平成26年度から整備を着手していきます。その拠点となる平城京歴史館では、日本の国づくりなどを映像や展示で紹介されています。

また記紀・万葉ゆかりの地として、日本書紀に記述のある相撲の資料館である葛城市相撲館や、聖徳太子が建立されたと伝えられている安堵町の飽波神社、極楽寺は、地元の観光資源として積極的に観光情報の発信に取り組まれています。

以上のことから、観光客誘致に向けてにぎわい交流の拠点整備、記紀・万葉ゆかりの地として観光情報の発信に積極的に取り組まれています。

以上、県内調査の概要といたします。

それでは、ただいまの資料、報告を含めまして当委員会で取り組むべき方向、または特に議論を深めるべき課題や論点につきまして、ご意見をいただきたいと思います。

ということで、今、棒読みしましたけれど、視察したこと、あるいはこの資料の概要を見て、これからの観光のあり方について。

○岩田委員 これほうまいことまとめてくれてある。

○梶川委員長 それでこの前見た近鉄奈良駅の行基菩薩の屋根はどうでしたか。

○粒谷委員 結構です。

○梶川委員長 何かどうぞ。

○森川委員 県内調査の結果、これはすごくうまくまとめていると思います。分かりやすい。ただ、この委員会の方向性として、今お尋ねされているのかなと思うのですけれども、このときに、各市町村長が県の観光振興が弱いと。支援体制をもう少し充実してほしいという話が出ていたのが一番大きな課題かなと。先ほども突然質問したのですけれども、奈良市の観光開発も大事だと思うのですけれども、観光開発というか、観光資源を掘り出している市町村は、何か変な壁があって、県とのパイプがないのところがうのかという印象を受けたわけです。奈良公園の基金を、反対に各市町村に広めるような提案を委員会として、やっていくことも大事なのかなと。調査の概要を見せていただいて、中身については、ほんとうによくまとめてもらっているので、あと方向性としたら、一生懸命地域で観光資源を掘り出そうとしている、安堵町にしても葛城市にしても。何かその辺の思いが、視察したときに直接伝わってくるのを感じたので、委員会としてそういう部分を取り入れられたらどうかと思います。意見として。

○梶川委員長 安堵町のことでいえば、小さい町だから。ただ、このたび広島大仏を見たけれど、広島大仏が安堵町にあったということで、原爆が投下されたときに広島大仏があった寺を町内小学校の修学旅行で、行ったらしい。行くことによって、また広島からも奈良へ来てくれる、安堵町まで来たのだらうと思うけれど、そういう交流が始まっているけ

れど、それを県としてどう支えていけるのか。例えば安堵町長がかねがね言っているのは、東京へ行ったら安堵町というのはどうやって行くのですかと言われた。JRで小泉駅まで来て、そこから先の交通機関はないわけ。安堵町はこのたび2,000万円ぐらいかけて町内バスを走らせているけれど、あれもいつまで続くかわからない。お金がいるから。逆に観光という面から運行しているバスをどう支えていけるかは、これも一つ課題だけれど、どんな問題があるのか。どう観光開発というか観光的に支えていけるのか。

○粒谷委員 森川委員がおっしゃるように、記紀・万葉プロジェクトというのは、市町村との関係プレーが必要です。基金を積むか積まないかは、市町村の財源の問題もあるので、どうかわからないけれども、今、森川委員がおっしゃるように、市町村との関係プレーをより密にしなければならないのは当然のことだと思うのです。それは方向づけとしてはやっっていく、そういう方向づけでいいのところがうかなと思う。ただ、基金は市町村の財源、財政力があるから、それは一緒にはならないだろうけれど、当然おっしゃるように、記紀・万葉プロジェクトは、市町村の記紀・万葉に絡む、そういうものが必要だから。方向づけはそれでいいのと違いますか。

○梶川委員長 それはさっきの奈良公園の基金含めて。

○粒谷委員 基金だけではなしに、市町村との記紀・万葉に絡んだ観光を含めて、市町村との関係プレーをもっと密にしないととおっしゃっているから、そうだと思います。

○梶川委員長 ほかに観光の点から。

○小林委員 行かせていただいて、葛城市長さんも竹内街道に大分力を入れていらっしやると聞いて、県の支援みたいなことを、おっしゃっていた気がするのですが、どういう支援なのかというのがあるのですが、それぞれの町とか村とか、さっき発掘と言われましたけれど、それをしていかないと思います。発掘というか、それぞれ町や村でしていくために、やっぱりお金がかかります。その辺をよく町村と交流、意見を聞くという機会をつくっていただくとか、こういうものやっしていきたいから支援をととか、そういう機会をつくるというか、今すぐにではどういう支援がというのはわかりませんが。

○森川委員 粒谷委員がおっしゃった市町村との連携を密にしていく、この委員会が先頭に立ってやっっていくと。

○梶川委員長 そういう意味では、ここに整理してもらってあるけれど、観光における市町村との、連携強化の方向を模索していくことが一つは論点としてあげられるけれど、これもなかなか難しいのは、例えば関西広域連合に入るか入らないかと言っていたときに、

入って広域的に観光を取り組んだほうがいいのではないかというような言い方に対して、知事は、いや、県ごとに、いわゆる隠し球みたいなものが多少あるから、広域連合に入らなくてもしっかりやっていくというようなことを言っていた。市町村がどういう支援を求めるか。葛城市長は県議会が来てくれるというので、期待もしてくれていたし、安堵町も一緒。

○森川委員 切実に期待されていた。

○小林委員 安堵町も町長はじめ、ボランティアの方もそうですけれど、熱意がすごく感じられ、教育委員会もそうでした。

○梶川委員長 ただ、安堵町でもそうだけれど、今度地域で飽波神社とか、広島大仏をハイキングして見ていきたいと思って計画しようかなと思っているけれど、県内の有名なハイキングコースならまだしも、県外の人が観光に安堵町を選んでというのはなかなか難しい。そこらをどうしたらいいか。(発言する者あり)

○粒谷委員 市町村としっかりと認識させていきましょう。

○梶川委員長 そういうことできょうの委員間協議を終わりたいと思います。

それでは、これで委員会を終わります。ありがとうございました。